

# 日韓教科書教材に関する比較研究

— 民話「三年峠」に着目して —

黒川麻実

(2015年10月5日受理)

A Comparative Study on Textbooks at Elementary Schools in Korea and Japan  
— Focusing on the folktale “The Three Years Hill” —

Mami Kurokawa

Abstract: This article examined the folktale “The Three Years Hill” which has been handed down to us from a distant past in Korea and appeared in Korean textbook and Japanese one until today. The first time to appear in textbook is 1934 in Korea under Japanese occupation. But Japanese and Korean education researchers do not recognize its historical background. The purpose of this article is to reconstruct its historical background and to compare its educational effects on between Japanese and Korean textbooks. The results of my investigation are as follows: 1) Historical background as an educational material: in Korea (1945~1965), the same version of it was selected from the textbook in occupied Korea. After 1987, its text in Korean textbook was revised five times, and each version has different formats and learning goals. In Japan, a single version of it has been selected and stays in the textbook until now with shifting its learning goals and contents. 2) Features of textbooks and curriculum in Korea: the various materials are arranged for aid to develop children’s language abilities. 3) Historical background as a folktale: the reason why it continues to appear in textbooks across time and space as seen above is not only its attractive contents but also its historical background, that is, the effect of the colonial policy on Korea from Governor-General of Korea.

Key words: The Three Years Hill, colonial textbook in Korea,  
historical background about textbook, Japan and Korea

キーワード：三年峠，植民地教科書，教材の歴史的背景，日韓

## 1. 問題の設定と目的・方法

### 1.1. 問題の設定と目的

教材「三年とうげ」<sup>1</sup>は、2015年現在光村図書出版小学校国語教科書に採録されている民話教材である。1992年の採録当時、教材「三年とうげ」は、

これまで取り上げられることのなかった、初めて採録された韓国・朝鮮の民話であること、日本の作家ではなく、韓国・朝鮮の作家によって再話された挿絵の描かれたものであること等、画期的な教材と言うことができる。<sup>2</sup>

と称され、韓国・朝鮮の文化理解の促進の役割を果たすと期待されていた。2015年現在もこのような教育意図は引き継がれている。実際の指導内容は実践者によって委ねられているが、教師用指導書には「韓国・朝鮮の民話」と明記されており<sup>3</sup>、学習者も挿絵や作者名などから教材「三年とうげ」が韓国・朝鮮の民話であることを感じ取ることができる。

また、韓国においても2015年現在、「三年峠」は教科書教材として掲載されている<sup>4</sup>。韓国の教育研究者である金東勲<sup>キムドンフン</sup>は韓国における「三年峠」について次のように述べている。

民話「三年峠」は韓国においても著名であり、「目上の者を大事にする韓国人の心を育むために役立つ話であり、韓国の教科書でも親孝行または祖父を思う孫の話として、子どもの教育に役立てることを意図している。<sup>5</sup>

このように、韓国における伝統や習慣、考えなどが鮮やかに表現された民話として「三年峠」は親しまれてきた。そして、現在も自国の民話教材として、韓国人児童に対し、様々な教育的効果を発揮することが期待されている。

しかし、「三年峠」は、一概に「韓国・朝鮮の民話」と言えない複雑な歴史的背景が存在することが、民俗学や朝鮮史学などの先行研究により明らかにされつつある。千恵淑は「三年峠」について、朝鮮半島で初めてテキスト化された媒体が、総督府の日本人文官である田島泰秀によって編纂された笑話集『オンドルヤツ 温突夜話』であったことを指摘し、京都に伝わる「三年坂」伝説との類似から、日本に「三年峠」の源流があるのではないかという見解を示した<sup>6</sup>。三ツ井崇は植民地期および解放後期に「三年峠」が教材採録されたことから、韓国での「三年峠」の流布のきっかけは朝鮮総督府編纂『普通学校朝鮮語読本巻四』によるものだと推察した<sup>7</sup>。さらに日本の教材「三年とうげ」が在日朝鮮人児童文学作家によって教材化された文脈について検討し、日本の国語教育研究の場において、教材「三年とうげ」の持つ歴史性について十分に議論がなされてこなかったことを指摘した<sup>8</sup>。

三ツ井が述べるように、「三年峠」が植民地時代の『普通学校朝鮮語読本巻四』に掲載されたこと、その源流が日本である可能性があることについては、日本の国語教育のみならず、韓国の国語教育の場においても、十分に認識されていない。そして2015年現在、日韓の国語教科書に「三年峠」は「韓国・朝鮮の民話」として採録され続けている。このような歴史性の認識不足が、実際に教室で行われている実践に影響を与えてしまう可能性があるといえる。教科書に「韓国・朝鮮の民話」として掲載されている以上、「三年峠」の歴史的な文脈について押さえておく必要がある。そこで、日韓の国語教育の場において、的確な歴史的事実を捉え、実践者や研究者に情報を提示するべきであると考ええる。

なお上記で取り上げた先行研究は、民俗学、朝鮮史学の視点から「三年峠」を分析したため、教材史としての通時的視点や、教育的視点による分析・考察が不足している。本論文では、このような不足点を補い、通時的観点を取り入れた教材史として「三年峠」の歴史的な文脈を整理する。その上「三年峠」が、教材とし

てどのような役割を果たしたか、為政者による教育意図はどのようなものだったかについて比較・検討を行い、日韓の「三年峠」の位相について問い直すことを目的とする。

## 1.2. 方法

本論文では、次の手順により分析を行う。

まず先行研究を整理し、教材史という観点から「三年峠」の歴史の変遷を記述する。現在までに登場する教材「三年峠」のテキストの存在をすべて確認した上で、次に教材の学習目標や学習内容に着目する。教科書に提示されている学習者に向けた目標や活動の他に、指導書などにも着目し、それぞれの時代の教材「三年峠」の教育的位相について提示する。

その上で、今日使用されている日韓の教材「三年峠」の歴史的背景について検討する。すなわち、どのような教材が源流であり、以降の教材に影響を与えているのかについて、明らかにしていく。具体的には、教材のテキストに着目し、単語や文章が、どのように変容し、付加され、削除されたかを比較し、現在の教材「三年峠」がどのテキストから影響を受けたのかを分析する。

その上で、いくつかの教科書教材「三年峠」に焦点を当てて単元目標や教育意図について、指導書などを元に比較・検討を行う。時代と共に、どのように為政者による教育意図が変容したか、また、日本と韓国における「三年峠」の教材としての位相の変化を捉える。

## 2. 民話「三年峠」の歴史の変遷の概観

まず先行研究で取り上げられた資料や、論者の調査研究により発見された資料を、教材以外のメディアも含め、通時的に整理、歴史の変遷を示す。

教材に限らず広く示し、歴史の変遷の概観を提示する。その際、現代日本、現代韓国、植民地期朝鮮、韓国併合以前の日本、と時系列を遡る形で整理し、状況の文脈を踏まえ述べる。

### 2.1. 現代日本

教科書教材として初めて登場したのは前項で述べたように1992年度版光村図書出版小学校国語教科書においてである。2015年現在では、「おもしろいと思うところを、しょうかいしよう」<sup>9</sup>という学習目標の元に同教材が掲載されている。日本の国語教科書における原典は、1989年に岩崎書店で出版された絵本「さんねん峠」であると指導書では提示されている<sup>10</sup>。しかし教材「三年とうげ」の原典を遡ると、1979年に李錦玉が機関誌『朝鮮画報』に掲載したものが初出であることが先行研究によって明らかにされた<sup>11</sup>。さらに論者

の調査により日本の朝鮮学校で「三年峠」が使用され、その内容は光村図書出版韓国語教科書の内容とは異なっているということが判明した。

また論者は李の他に在日朝鮮人二世である徐斗里<sup>ソドゥリ</sup>によっても「三年峠」が再話されていることを発見した。徐は1986年から、新聞「茨城朝日」に自身の見聞きした韓国民話を掲載しており、その中に「三年峠」が存在した<sup>12</sup>。なお、この掲載は1991年に発刊された『朝鮮の昔ばなし』に再録されている。

## 2.2. 韓国(戦後～現在)

韓国では、第二次世界大戦後、「三年峠」は教材「삼년고개」として、教授要目から第二次教育課程にいたるまで、約20年間教材として教科書に採録され続けた。その後採録が一旦途絶えるが、1990年代になると絵本などで「삼년고개」が刊行され始め、第五次教育課程からは教科書への採録も復活する。引き続き、第六次教育課程、第七次教育課程、2007年改訂教育課程、2009年改訂教育課程において採録が続いている。絵本における「삼년고개」も数多く存在し、様々なバリエーションが存在している。

## 2.3. 植民地期朝鮮

先行研究において示されていたように、民話「三年峠」は『普通学校朝鮮語読本巻四』の教材「三年<sup>ツ</sup>고개」として1934年に採録されている<sup>13</sup>。そして、戦前・戦後の断絶を乗り越え、その後もしばらく国語教科書に採録され続けていた。また、『普通学校朝鮮語読本巻四』における教材「三年고개」の原典が日本人によって収集された笑話集『温突夜話』ではないかと先行研究により推察されている<sup>14</sup>。論者の調査によれば、田島の「温突夜話」以前の説話集、高橋亨『朝鮮の物語集附俚諺』(1910)や三輪環『伝説の朝鮮』(1918)などには民話「三年峠」にあたるものが見当たらず、現存するテキストとしては「温突夜話」が朝鮮半島で最も古いといえる。

## 2.4. 韓国併合以前の日本

日本の「三年坂」伝説は古くは江戸時代から書籍等に散見される。その中でも特に池田東離の『都名所車』の「三年坂」は、伝説の説明だけではなく登場人物なども登場し昔話の形態に近い形をとっている。『都名所車』とは、洛中の道筋や辻子・異名を示したものであり、京都の三年坂の地名由来を記載している<sup>15</sup>。京都以外では、坂本次郎(1982)『紀州史叢策

第五集』の中に「三年坂の算術」という説話が紹介されていた。これは和歌山県の「三年坂」にまつわる伝説を笑話化したものである。

## 3. 教材「三年峠」の位相の変容

次に「三年峠」の教材としての位相について、民話「三年峠」の歴史の変遷で整理したテキストの中から教科書教材に登場した「三年峠」について焦点を当て詳細に記述する。「三年峠」が教材として初めて登場したのは植民地朝鮮の『普通学校朝鮮語読本巻四』である。その後、太平洋戦争を乗り越え、韓国および日本で教材化された。このような、教材の歴史の変遷を【表1】にした。【表1】では出版年度および出版場所について時系列に示し、出版年度順に教科書教材に①～⑯の番号を付記した。同年代の場合は、韓国、日本の順で記載している。

次に①～⑯の教科書教材「三年峠」について、教材内容についての概略を提示する。なお、以降は韓国の教科書および指導書は論者によって翻訳し、日本語訳を掲載することとする。

### 3.1. 植民地期朝鮮および建国期韓国

まず、植民地期朝鮮および建国期韓国において使用された教材「三年峠」①～④について教材の概要を詳述する。

#### 3.1.1. ①『普通学校朝鮮語読本巻四』および②『四年生普通学校朝鮮語読本巻四』

朝鮮総督府によって作成された教科書①『普通学校朝鮮語読本巻四』および②『四年生普通学校朝鮮語読本巻四』は、両者は同じ教材内容である。対象者は、朝鮮人児童であり、朝鮮語教育の教材として使用された。文体はハングル漢字交じり文であり、挿絵も2枚

【表1】教材「三年峠」の歴史の変遷

年号	植民地朝鮮		日本
	韓国	北朝鮮	
1933	①朝鮮総督府『普通学校朝鮮語読本 巻四』		
1934	②朝鮮総督府『四年制普通学校朝鮮語読本 巻四』		
1946	③朝鮮語学会『初等国語教本 中』		
1965	④文教部『国語 3-2』		
1987	⑤教育部『国語 書く 5-1』		
1992	⑥教育部『国語 話す・聞く 3-2』		⑦光村図書出版『わかば 三年上』
1996			⑧光村図書出版『わかば 三年上』
2000			⑨光村図書出版『あおぞら 三年下』
2001	⑩教育部『国語 読む 4-1』		
2003			⑪光村図書出版『わかば 三年上』
2005			⑫光村図書出版『わかば 三年上』
2010	⑬教育科学技術部『国語 読む 3-2』		
2011			⑭光村図書出版『あおぞら 三年下』
2014	⑮教育部『国語 上 3-2』		
2015			⑯光村図書出版『あおぞら 三年下』

ほど挿入されている。単元名、学習内容は提示されていない。

### 3.1.2. ③『初等国語教本 中』および④『国語 3-2』

太平洋戦争後、朝鮮半島は南北戦争が勃発し南北の分割統治が始まる。北朝鮮について、教材として「三年峠」が使用されたかどうかは現段階の調査では判明していない。よって以降は韓国における教材「삼년고개」の変遷に着目する。韓国では、【表2】のような教育課程が存在し、教育課程の変遷と共に教科書も改訂されている。

【表2】韓国における教育課程の変遷

施行年	教育課程	国語教科書の特徴
1945年	教授要目期	上・中・下の三分冊
1955年	第一次教育課程	一学期、二学期の二分冊
1963年	第二次教育課程	〃
1973年	第三次教育課程	〃
1981年	第四次教育課程	〃
1987年	第五次教育課程	「読む」「書く」「話す・聞く」の三冊に分割、それぞれに一学期、二学期の二分冊
1992年	第六次教育課程	〃
1999年	第七次教育課程	〃
2009年	2007年改訂教育課程	〃
2011年	2009年改訂教育課程	「国語」「国語活動」の二冊に分割、上、下、一学期、二学期の分冊あり

なお教科書は現在まで国定教科書制度である。

教授要目期、第一次教育課程および第二次教育課程で使用された教科書③『初等国語教本 中』および④『国語 3-2』に登場する教材「삼년고개」は、先に取り上げた①、②の教材本文の内容とほぼ同一である。しかし表記面等、いくつか変容が見られるので取り上げた。

#### (1) 終末部分の教訓談の削除

①、②における「삼년고개」の終末部に、【表3】のような記述内容が存在していたが、丸ごと削除されている。①、②において朝鮮総督府が試みた、朝鮮児童に対する「文明人としての」教育が、建国期韓国においては不適切であったということを推察することができる。

【表3】①、②「삼년고개」の終末部分の教訓談

皆さんはこのような話を聞いて、世の中に昔から伝わっている話の中には、信じられないものが多いということが分かったでしょう。信じられないようなことを信じてしまうのが迷信なのです。鬼やお化けが世の中にいると思うことも、迷信なのです。鬼やお化けは、人間が作った話の中にはいても、実際にはいないわけです。迷信に惑わされることは、文明人としてこの上なく恥ずかしいことなのです。

#### (2) ハングル漢字交じり文からハングル体、縦書きから横書き表記へ

③の教科書は米軍政庁の管理下において朝鮮語学会に委託され作成された。朝鮮語学会はハングル普及のために様々な工夫を教科書に取り入れた。その影響が教材「삼년고개」にも表れている。④もその流れを引き継ぎ、ハングル体および横書きで記述されている。

#### (3) 単元名「昔話 (옛 이야기)」の付記

④における教材「삼년고개」には単元名が付記されている。「昔話」という単元には他にもいくつかの昔話が採録されている。このような単元名は①、②には見られない特徴である。

このような特徴が③および④には見受けられる。なお上記および挿絵の変更以外では、教材「三年峠」は全く同じ内容を踏襲している。

### 3.2. 現代韓国

その後、第三次教育課程および第四次教育課程では教材「삼년고개」の採録は途絶える。そして、第五次教育課程⑤『国語 書く5-1』、第六次教育課程⑥『国語 話す・聞く3-2』、第七次教育課程⑩『国語 読む4-1』、2007年改正教育課程⑬『国語 読む3-2』、2009年改正教育課程⑮『国語 上 3-2』において教材「삼년고개」は再登場している。しかし、前述した植民地期朝鮮および建国期韓国で使用された教材「삼년고개」と教材内容および形式、単元など大きく異なっている。そこで、一つずつの教材「삼년고개」の位相を確認する。

#### 3.2.1. ⑤『国語 書く 5-1』(1987)

⑤『国語 書く5-1』の「삼년고개」は、第五次教育課程に登場した教科書である。第五次教育課程から教科書は能力別に分冊され、「삼년고개」は「書く」能力育成のための教科書教材として、漫画形式で提示されている。「삼년고개」を六つの場面に分け、登場人物は主人公であるお爺さんと、知患者である若者の二人しか登場しない。はじめのコマでは若者の「이 고개에서 넘어지면 3년밖에 못 산다지 (この峠で転ぶと三年しか生きられない)」、それに対するお爺さんの「그래서 3년 고개가 아닌가 (それで三年峠なのか)」というセリフが描かれている。それ以降の、主人公が転ぶ場面、主人公が病気になる場面、知患者がお見舞いに来て主人公が怒る場面、主人公が知患者に納得する場面、主人公が再び三年峠で転ぶ場面においては吹き出しの中が空欄になっている。本教材で提示された学習内容は次の通りである。【表4】

【表4】⑤「삼년고개」学習内容

1. 次の漫画をよく読んで、吹き出しの空欄にはいる内容を考えよう

3.2.2. ⑥『国語 話す・聞く3-2』(1992)

⑥『国語 話す・聞く3-2』は第六次教育課程に登場した教科書のうち、「話す・聞く」ことに特化した教科書である。よってこの教科書に登場する「삼년고개」は音声教材である。教師が「삼년고개」のストーリーを学習者に読み聞かせ、それを元に学習活動を展開している。

提示されている学習活動は次の3つである。【表5】

【表5】⑥「삼년고개」学習内容

- |   |
|---|
| 1. 挿絵を見ながら先生のお話して下さる「三年峠」を注意して聞きましょう<br>2. もう一度お話を聞いて、お爺さんと寺子屋の先生に対し感じたことや考えたことを話しましょう<br>3. 私がもしお爺さんだったらどのように行動したか話しましょう |
|---|

3.2.3. ⑩『国語 読む4-1』

⑩『国語 読む4-1』の「삼년고개」は、読み教材として提示されている。単元名は「함께하는 우리(私たちと一緒に)」である。本単元では、お話に出てくる人物や行動を比較し、人物の性格や状況を明らかにするために詳しく読解することを目的としている。提示されている学習活動は次の4つである。【表6】

【表6】⑩「삼년고개」学習内容

- |  |
|--|
| 1. 登場人物の心情に注意しながら三年峠を読みましょう。<br>2. 三年峠を読んで、次の問いに答えてみましょう。<br>(1) お爺さんが三年しか生きられないと思ひ込んだ理由は何ですか？<br>(2) お爺さんが長く生きることになった理由は何ですか？<br>3. 三年峠をもう一度読んで、お爺さんと少年の話や行動を調べてみましょう。<br>4. 三年峠に対するお爺さんと少年それぞれの見方の違いがどのようにあるかを話し合ひましょう |
|--|

3.2.4. ⑬『国語 読む3-2』および⑮『国語 上3-2』

2007年改訂および2009年改訂教育課程に登場した教科書に、「삼년고개」は掲載されている。

なお両者共に同じ原典を使用しており、⑬から⑮に移る際、大幅に内容を削除され、⑮では「こんなお話もあるよ」という提示にのみ留まっている。よって本稿では⑬を中心に教材の位相について詳述したい。

⑬および⑮は、漫画教材である。⑤『国語 書く5-1』も漫画教材であったが、こちらの教材のほうが分量・内容ともに多い。単元名は「心を読みましょう」であり、「삼년고개」では、「人物の気持ちを考えながら、漫画を読むことができる」という学習目標が提示され

ている。提示された学習内容は次の通りである。【表7】

【表7】⑬「삼년고개」学習内容

- |   |
|---|
| ・顔の表情や身振りなどを見て、人物の気持ちや考えがわかりますか？人物が何を考えているか話してみよう。<br>・人物の心を考えて「三年峠」を読みましょう<br>・「三年とうげ」を読んで、答えてみましょう。<br>(1) 三年とうげの伝説とは何でしょうか？<br>(2) 三年とうげで転んでも長生きできる方法はなんでしょうか？<br>(3) 老人(노인)は再び三年とうげに行き、どのような行動をとりましたか？<br>・三年峠をもう一度読み、老人の心について考えましょう。<br>・人物の気持ちに適したセリフを吹き出しに、書いてみましょう。 |
|---|

3.3. 日本

日本では1992年の⑦『わかば 三年上』から2015年の⑯『あおぞら 三年下』まで、「三年とうげ」が採録され続けている教材内容は、漢字などの表記の違い以外は、同じ内容、同じ挿絵になっている。単元の目標などは、教科書改訂ごとに変更している。【表8】

最新の教科書である⑯『あおぞら 三年下』では次のような学習内容が提示されている。【表9】

【表9】⑯「삼년고개」学習内容

- |   |
|---|
| ○おもしろいと思うところを見つけながら読もう<br>▼(1)から(4)のさし絵を手がかりに、「三年とうげ」のないようをたしかめましょう。<br>・「三年とうげ」は、どんなところでしょうか。言いつたえともあわせてたしかめましょう。<br>・どんな人物が出てきますか。<br>・どんな出来事が起こり、どのように解決しましたか。<br>・「おじいさん」の様子や気持ちは、どうかわかっていったでしょうか<br>▼「三年とうげ」を読んで、おもしろいと思ったところや、心にのこる言葉や文を、ノートに書きましよう。<br>○自分の考えをもとう<br>「トルトリ」は、どんな人物だと思いますか。そう思った理由と一いしょに話しましょう。<br>○民話や昔話をしようかしよう<br>①図書館などで見つけたり、これまでに読んだりした本の中から、しようかしたい民話や昔話をえらびましよう。<br>②えらんだ民話や昔話のないようを、たしかめましよう。おもしろいと思うところとその理由を、ノ |
|---|

トにまとめましょう。

③民話や昔話のおもしろさが、友だちにつたわるようにしようかいしましょう

○ふりかえろう

□「三年とうげ」を読んで、おもしろいと思ったところはどこでしたか。

□民話や昔話をしようかいするとき、どんなことに気をつけましたか。

なお、日本の朝鮮学校においても教材として使用されたという事実が、論者のインタビュー調査により判明している<sup>16</sup>。しかし、教材本体については現在のところ入手できていないため、教材としての存在事実の提示のみに本稿では留めておくことにする。

### 3.4. 教材「三年峠」の歴史の変遷についての考察

以上、現在論者が確認できている民話「三年峠」の教材史について記述、教材の位相について確認した。ここからわかる教材「三年峠」の日韓の差異や影響関係について考察する。

#### 3.4.1. 日韓の教材「三年峠」の差異

韓国における教材「삼년고개」のバリエーションは非常に豊かである。韓国では教材の改定毎に「삼년고개」も読み教材、漫画教材、音読教材と変容が見られる。すなわち韓国に置いて「삼년고개」が様々なバリエーションを有する著名な民話であるということを示している。現在まで途中で断絶はあったものの、長年教材として掲載されているということは、教材のストーリーが韓国人児童の教育に相応しい内容であるということが伺える。

また、韓国では最新の教材「삼년고개」を、親しみやすいタッチで描かれた学習漫画本から採択するなど、時代による学習者の変容に合わせ、教材自体を変化させている。一方の日本では約25年間同じ教材を使用し続けているため、教材内容は同じまま、時代の変遷に合わせて学習目標や単元が変化する形になっている。

なお、韓国における「삼년고개」はどれも内容が短く、一時間から二時間で学習できるように設定がされている。しかし、日本の「三年とうげ」は六時間から八時間かけて行う学習内容が設定されている。また、音読劇などの言語活動を取り入れ、一つの教材について深く掘り下げるような授業展開が行われている。

このような日韓の「삼년고개」の位相の違いの要因は、自国の

民話を学ぶか、他国の民話を学ぶかの違いが挙げられる。また教科書の編纂課程の違いや、教科書教材に対する意識の違いなども挙げられる。

#### 3.4.2. 植民地期朝鮮の教材「三年고개」の影響

さらに教材として初めて登場した植民地期朝鮮時代の①『普通学校朝鮮語読本巻四』の影響を日韓の教科書教材は少なからず受けている可能性があることが判明した。少なくとも韓国では、①～④までは、同じ教材内容を使用していた。その後、韓国では約20年の断絶期間を越え、教材内容を一新し再登場している。日本では戦後約50年の時を越え、教材として登場した。このことから、教材「三年峠」の源流は、①『普通学校朝鮮語読本巻四』であるといえる。しかし、現段階では状況的側面による推察にすぎず、確実たる証拠は得られていない。

そこで、具体的なレベルから、教科書教材にどのように影響関係が存在するののかについて、確実に捉えていく必要がある。教材のテキストに着目し、何が付加され、何が削除されたかについて言語的文脈から比較検討を行う。すなわち確実たる証拠として、テキストの単語・文の一致を明らかにしようとする試みである。

## 4. 教材「三年峠」のテキスト比較検討

本論文では特に教科書教材として初めて登場した①『普通学校朝鮮語読本巻四』と、現在日本で使用されている⑫『あおぞら 三年下』および韓国の⑬『国語読む3-2』のテキスト内容を比較検討する。その上で、戦前・戦後を越えて存在する教材「三年峠」の歴史的文脈に、今の教材はどのように位置づけられるかについて考察を加える。

### 4.1. 比較方法および結果

対象テキストである①『普通学校朝鮮語読本巻四』、⑫『あおぞら 三年下』および韓国の⑬『国語読む

【表8】日本の「三年とうげ」学習目標の変遷

年代	教科書	学習目標
1992	⑦『わかば 三年上』	人物の気持ちを思い浮かべながら読もう
1996	⑧『わかば 三年上』	おもしろいと思ったところは
2000	⑨『あおぞら 三年下』	おもしろいと思ったところは
2003	⑩『わかば 三年上』	あつまれ、世界のお話 「三年とうげ」をよんで、おもしろかったところを友達と話し合ってみましょう。また、図書室や図書館でいろいろな国や地いきのお話をよんでしようかいしましょう
2005	⑪『わかば 三年上』	本と友だちになる いろいろな本をよんで、おもしろいところを見つけ友だちにしようかいしましょう
2011	⑭『あおぞら 三年下』	民話や物語の組み立てを考えよう どんな出来事がおきるのでしようその出来事は、どのようにして解決するのでしょうか
2015	⑮『あおぞら 三年下』	おもしろいと思うところを、しようかいしよう 民話や昔話を読んで、おもしろいと思うところを見つけましょう。そして、それがつたわるようにしようかいしましょう。

日韓教科書教材に関する比較研究  
 一 民話「三年峠」に着目して一

【表10】「三年峠」テキストの比較検討

	朝	日	韓
(1) 主人公	お爺さん	おじいさん	おじさん
(2) 知恵者	隣に住む少年	水車屋のトルトリ	本虫の兄さん
(3) 名称	三年とげ	三年とうげ	삼년고개
(4) 伝承の伝聞形態	言い伝え	歌	立て板
(5) 通行の際の用事	買い物からの帰り道	反物を売りに行った帰り道	市場の帰り
(6) 転倒の要因	石につまづいて倒れる	石につまづいて転ぶ	靴が脱げる
(7) 石の出現	有	有	
(8) 転倒時のセリフ			あ！さ、三年峠！
(9) 転倒時の反応	途方に暮れる	真っ青になって震える	立て板を見て、叫ぶ
(10) 家に帰るまでの様子	あたふたと家に帰る	すつとんで帰る	妻の名前を呼びながら走って帰る
(11) 主人公を迎えた家族	妻と息子達	おばあさん	妻
(12) 周囲への事実報告の様子	言いながら泣く	おばあさんにしがみつき泣く	座り込んで話す「もうせいぜい生きても三年だ。」
(13) 事実を聞いた家族の反応	途方に暮れ、ただ一緒に泣く		靴を地面に叩きながら泣いている。「なななんですって!?!」「さ、さ、さん年峠で転んだと?」「まあ、もう終わりだ。終わりだ。その峠で転んだハさんもドンバク家もみんな全て三年を切り抜けず、死んだのに!うちの主人が!」
(14) 主人公自身の反応	病気になる	病気になる	病気になる
(15) 病氣への対応	医者をやぶ、薬を飲ませる	医者をやぶやら薬を飲ませるやら	医者をやび、相談をしている
(16) 三年峠で転んでしばらくすると	死を待つだけ	村の人たちもみんな心配する	落ち込んでいる主人公の息子に、本虫の兄さんが事情を聞く。何やら耳打ちをすする
(17) 登場の仕方	見舞いに来る	見舞いに来る	息子は家に帰り父のところへ行く
(18) 知恵者登場時のセリフ	「三年とうげ」で倒れたのでしたら、それほど心配ありません。うまく切り抜けられる方法があります。	おいらの言う通りにすれば、おじいさんの病氣はきっとなおるよ	さてお父さん、三年峠で転んでも長く生きる方法があります。
(19) 主人公の反応	思わずすくつく立ち上がる「何?うまく切り抜けられる方法がある?」	「どうすればなおるんじゃ」布団から顔を出す	床に臥せ怪訝そうにしているそばにいる妻「誰に何と聞いたの?」
(20) 解決方法のセリフ	はい、あります。とても簡単です。「三年とうげ」に行ってもう一度倒ればいんです。	なおるとも。三年とうげで、もう一度転ぶんだよ。	本虫の兄さんが言ったんだけど三年峠に行ってもう一回転んだらいいんですって。
(21) 主人公の反応	木の枕で少年を殴ろうとする「何?おまえ、わしをからかっているのか?もう一度倒れたら俺はその場で死んでしまう」	ばかな。わしに、もっと早く死ねと言うのか	怒って起き上がる「な、なんだと?その子が私に早く死ねとでたらめなことをいってるんじゃない!その子ですぐ!」
(22) 解決方法の具体的な解説	「違います。ちょっと我慢して、僕の話をお聞き下さい。一度倒れたら、三年は生きれます。ですから、二度倒れたら六年ですし、三度倒れたら九年、四度倒れたら十二年、こんないい方法が他にあるでしょうか。」	「そうじゃないんだよ。一度転ぶと、三年生きるんだろ。二度転べば六年、三度転べば九年、四度転べば十二年。このように、何度も転べば、うんと長生きできるはずだよ。」	「ちがうよ、お父さん。その兄さんの言うことはあつてるよ。一回転んだら三年は生きるといってでしょう。だから、二回転んだら六年(3×2=6)になるでしょう。」
(23) 納得した時の主人公のセリフ	ああ、お前の言う通りかもしれない	うん、なるほど、なるほど。	百回転んだら三百年!妻「今すぐ三年峠へ行きましょう」
(24) 転ぶ時の言動	やたらごろごろ転げながら「この倒れた回数だけ生きれるようにしてください」と祈った	わざとひっくり返り、転びました	「なるべく長く生きるようにしてください」妻・子も側にいる
(25) 転ぶときに聞こえた精霊の声(歌)	「心配いらない、東方朝もこの峠で6万回も倒れた」	「えいやら えいやら えいやらや。一べん転べば 三年で、十べん転べば三十年、百べん転べば三百年。こけて 転んで ひざづいて、しりもちついて でんぐり返り、長生きするとは、こりやめでたい。」	
(26) 精霊の正体	少年	(トルトリ)	
(27) 主人公のその後	その後、三年どころかとても長生きした	おばあさんと 二人なかよく 幸せに 長生きした という事です。	
(28) 終末部分	信じられないようなことを信じてしまうのが迷信なのです。鬼やお化けが世の中にいると思うことも、迷信なのです。鬼やお化けは、人間が作った話の中にはいても、実際にはいないわけです。迷信に惑わされること、文明人としてこの上なく恥ずかしいことなのです。	ところで、三年とうげのぬるでの木のかげで「えいやら えいやら えいやらや。一べん転べば 三年で、十べん転べば 三十年、百べん転べば 三百年。こけて 転んで ひざづいて、しりもちついて でんぐり返り、長生きするとは、こりやめでたい。」と歌ったのはだれだったのでしょうか。	

3-2』の比較方法について述べる。

まず、対象教材をすべてテキスト化した。⑬『国語読む3-2』は先述したように、漫画教材である。セリフ部分、登場人物の行動および情景については論者がテキスト化した。その上で、各テキストが有する要素を場面展開順に、29に分割した。それを朝：①『普通学校朝鮮語読本巻四』（以下、朝①）、日：⑯『あおぞら三年下』（以下、日⑯）、韓：⑬『国語読む3-2』（以下、韓⑬）の順に並べ、どのような単語や文が付加されたか、変容したか、削除されたかを一目で読み取れるように提示した。【表10】

#### 4.2. 対象テキストの相違点の検討

次に【表10】から対象テキストの相違点について検討する。特に相違点を読み取ることでできる要素についていくつか取り上げる。

##### (1) 主人公と(2) 知恵者

主人公と知恵者は、朝①ではお爺さんと隣に住む少年、日⑯ではお爺さんと水車屋のトルトリ、韓⑬ではおじさんと本虫の兄さんとなっている。主人公と知恵者の関係性はすべて「年配者－若者」という構造になっており、孝子端的要素が伺える。特に韓⑬では、知恵者が息子に知恵を授け、直接的に主人公を助けるのは息子であり、親孝行の要素も見られる。

##### (4) 伝承の伝聞形態

ここでは、テキスト間において差異が大きく見られている。まず朝①では言い伝えである。日⑯は「むかしからこんな言いつたえがありました」と前置きしたうえで歌によって提示している。韓⑬では立て看板に「この峠で転んだら三年しか生きることができない。－伝説敬白」と記載されている。

##### (6) 転倒の要因

転倒の要因は、朝①、日⑯が両者共に石に躓いてこける、韓⑬はお土産に気を取られ、スキップをしたとたん靴が脱げて転倒している。

##### (13) 事実を聞いた家族の反応

朝①および韓⑬では、家族も涙を流し、一緒に悲しみを分かち合っている。特に韓⑬では妻が両目から滝のような涙を流し全身で悲しみを表現している。

##### (15) 病気への対応

病気への対応ではすべてのテキストでお医者者を呼ぶなどといった医療行為を行っている。

##### (18) から(22)までの主人公と知恵者のやりとり

すべてのテキストで同じようなやり取りが繰り返されている。(21)の主人公の反応では朝①および韓⑬では怒りを露わにしている。また(22)では、朝①と日⑯が、一回：三年、二回：六年、三回：九年、四回：十二年と共通して例示しているが、韓⑬では掛け算(3×2

=6)を提示している。

##### (24) から(26)までの再び転倒する描写

韓⑬では、家族も共に三年峠に向かい転がる主人公の傍で見守っている。一方、朝①、日⑯では精霊の声もしくは歌が登場している。朝①では、その正体が知恵者であると明記されている。日⑯では教材本体では明示されていないが、原典ではトルトリであると明示されている。これは、教科書側が正体を削除することで、学習者に想像させようという教育意図がなされている。<sup>17</sup>東方朔が出てくるのは朝①のみである。

##### (28) 終末部分

終末部分はテキストによって異なっている。朝①は先述したように、教訓談を付随させている。日⑯では声の正体に対する投げかけを行っている。

#### 4.3. 対象テキストの相違点の考察

次に、相違点の考察を元に、①『普通学校朝鮮語読本巻四』（朝①）と、現在日本で使用されている⑯『あおぞら三年下』および韓国の⑬『国語読む3-2』（韓⑬）の関係性について述べる。

##### 4.3.1. 朝①と日⑯の関係性

まず、朝①と日⑯の関係性について考察する。両者はテキストの展開も内実も非常に類似点多くみられる。特に(4) 伝承の伝聞形態および(6) 転倒の要因、(18) から(22)までの主人公と知恵者のやりとりは朝①のテキストを日⑯がほぼ踏襲している。日⑯では作者の李によって伝聞形態が歌に変容する、情景や登場人物の心情が色彩豊かに描かれ、民話らしいテンポのよい表現創作が加えられ、児童向けの民話としての特色が伺える。しかしテキストの骨格は①朝に基づいているということが比較検討によって読み取ることができる。

一方で、いくつかの差異も見られる。(25) 転ぶときに聞こえた精霊の声では、東方朔という実在の人物が登場している。(28) 終末部分では教訓談を加え文明人としての在り方を示している。このことから、朝①では、朝鮮人児童に向けて、より教育的配慮を行っているといえる。

教材の登場した時代背景等の状況の文脈や、対象とする学習者、教育意図は異なるが、テキスト内容はほぼ同一である。よって、テキストから読み取れる老人の俗信をすぐに信じてしまう愚鈍さ、それを発想転換の知恵により救う若者、という登場人物の構図や孝子端的要素は現在の日本の教材にも引き継がれているといえる。

##### 4.3.2. 朝①と韓⑬の関係性

朝①と韓⑬は差異が顕著に表れている。朝①や日⑯では登場しなかった妻や息子の存在や、知恵者の立場など、かなり変容が見られる。また、より主人公の俗

信をすぐに信じてしまう愚鈍さが、朝①に比べ色濃く描かれている。韓⑬は、漫画教材であるため、登場人物の心情がイラストによって非常に明快に伝わるようになってい

る。ストーリーの骨組みも異なり、特に(4) 伝承の伝聞形態が立て板であること、最終的に息子が親を救う構図になっている点など、オリジナリティが多く含まれている。一方で、(13) 事実を聞いた家族の反応は朝①、韓⑬共に、家族も一緒に悲しみを共有する姿が鮮やかに描かれており、朝鮮半島の国民性を映し出していると見ることもできる。

#### 4.3.3. 韓⑬と日⑯の関係性

韓⑬と日⑯は、ほぼ同時代に国語の「読み」教材として登場し、民話「三年峠」を教材化しているのにも関わらず差異が多くみられる。源流である朝①を起点にしつつも、韓国ではバリエーション豊かに教材を変容させ、日本では同じ教材を長年使用し続けている。

学習内容などは、登場人物の心情を学習者に読み取らせる点など類似点も多く存在する。しかし、より「民話」要素が強いのは日⑯であり、韓⑬は漫画から読み取りを行うための一教材であるという位置づけしかなされてい

ない。日⑯および韓⑬には直接的な関係性は存在しないが、同じ源流から出発しながらも、このような差異が見て取れることは、一種の合わせ鏡のように、お互いの教材の位相を確かめ合える。このような教材は「三年峠」以外には現在のところ見当たらず、今後の日韓教育比較のために、また教科書教材の歴史的背景と実践がどのように向き合っていくべきかを議論するために、教材「三年峠」は希少であり貴重な史料である。

## 5. おわりに

### 5.1. 成果

以上、民話「三年峠」について、通時的観点を取り入れた教材史として「三年峠」の歴史的文脈を整理した。その上で、「三年峠」が、教材としてどのような役割を果たしたか、為政者による教育意図はどのようなものだったかについて分析した。さらにテキストの比較検討を、植民地期朝鮮の教材「三年고개」、日本の教材「三年とうげ」、韓国の教材「삼년고개」に焦点を当てて比較を行った。

その結果、次のことを明らかにすることができた。

まず、源流である植民地期朝鮮の教材「三年고개」から現在の日本や韓国の学習者が学んでいる「三年とうげ」および「삼년고개」までの歴史的文脈を確認できたことである。韓国において、様々な形式で「삼년

고개」が掲載され、学習目標なども異なるということが判明した。日本においても同一の教材を使用しながらも時代の変遷および教科書改訂に伴い、学習目標や内容を変容させているということがわかった。

次に、教材史「三年峠」を通し、韓国の教科書および教育課程の特徴について明らかにすることができた。韓国の教科書では、教材から様々な言語能力を育成していくというよりは、育成したい言語能力に向けて様々な種類の教材を数多く単元に配置している。また、韓国は国定教科書であるため、教育課程の変遷に伴う教科書教材の変容が顕著に表れる。このような韓国の教科書教材の特徴について「三年峠」の教材史の変遷を捉えることで解明することができた。

最後に、現在使用されている韓国と日本の教材「三年峠」について、その歴史的背景を様々な観点から分析することができた点が挙げられる。民話「三年峠」が、植民地朝鮮、日本、韓国と時空を越えて教科書に掲載されたということは、作品の内部に存在する面白さに人々が惹き付けられた結果である。しかし、民話「三年峠」が朝鮮半島において自国の民話として認識される過程において、植民地期朝鮮の教科書『普通学校朝鮮語読本巻四』の存在抜きには語れないことが判明した。その背景には朝鮮総督府による朝鮮半島への植民地政策の影響が存在する。

また、植民地期に使用された教科書『普通学校朝鮮語読本巻四』に掲載された教材「三年고개」の後世への影響力の強さも窺い知ることができる。その要因には次のことが考えられる。まず、教科書『普通学校朝鮮語読本巻四』が植民地教育に使用された教科書であるということが挙げられる。次に、この朝鮮語読本が国定教科書であったことが挙げられる。よって教育を受けた朝鮮人児童はこの「三年고개」を学んだということになる。最後に、「三年고개」が自国の民話として位置づけられ、教材として使用された点である。朝鮮人児童のアイデンティティにも関わるような民話であったからこそ、印象深く学習者の中に根付くことになったと考えられる。その結果、現在まで教材「三年峠」は生き残り続けている。

このような背景を持つ民話「三年峠」を、「韓国・朝鮮の民話」として位置付けている日韓の小学校国語教科書は、果たして現状のままで良いのだろうか。また、教材「三年とうげ」の持つ歴史性や社会性といった文脈と切り離して行われる教室での学びは、果たして本当の学びといえるだろうか。論者は、教材「三年とうげ」の国語教科書における位相を今一度問い直すべきではないかと考える。

また、教材「三年とうげ」に限らず教科書教材の持

つ歴史性について、国語教育研究の場において十分な議論を重ねたうえで教科書教材として採択するべきであるという課題も、本研究から提言することができる。

## 5.2. 今後の課題

本研究における課題は次の二点が挙げられる。

まず、北朝鮮および日本の朝鮮学校における教材「三年峠」への検討が不足している点である。両者のテキストは、日本の教材「三年とうげ」の原作者である、在日朝鮮人作家、李錦玉との関連が推察される。教材が存在しているという事実でとどまることなく、テキスト内容を詳細に分析することで、日本の教材「三年とうげ」の更なる歴史的背景の追及へと繋がると思われる。

次に、教材としての源流は植民地期朝鮮の教科書教材「三年고개」であることは判明したが、それ以前の民話・説話・伝承における民話「三年峠」がどのような形で教材として成り立つに至ったか検討する必要性が挙げられる。本論では教材史という観点からの検討であったため、教科書教材以外のメディアにおける「三年峠」については対象外としていた。しかし、教科書教材が、同時代の言語文化とどのように相互影響し合いながら後世まで流布するに至ったか、明らかにしていく必要があると言える。

最後に、教科書教材から生じる実践や学習の変容について捉えられなかった点が挙げられる。本論文では、教科書教材における学習目標や学習内容、教師用指導などに焦点を当て、現実の実践現場で行われていた教材「三年峠」を巡る実践や学習については把握しきれなかった。特に、植民地期朝鮮における「三年고개」の実践や学習については資料がほとんど見当たらなかった。学習者の「読み」が歴史的変遷とともにいかに変容したか、この点についても今後検討していく必要がある。

## 【注】

<sup>1</sup> 「三年峠」には時代毎、地域毎に様々な表記がなされているため、本稿では、特定のテキストを示さな

い場合、総称として「三年峠」と表記、それ以外では、各々のテキストに基づき題名を表記する。

- <sup>2</sup> 菅原稔（1997）「教材としての「三年峠」－その位置と意義」全国大学国語教育実践研究会編『実践国語研究 別冊「三年とうげ」教材研究と全授業記録』p.47
- <sup>3</sup> 光村図書出版（2015）『国語三下 あおぞら 教師用指導書』p.138
- <sup>4</sup> 이근（2010）「삼년고개」교육인적자원부『읽기 3-2』pp.132-137
- <sup>5</sup> 金東勲（1997）「「三年とうげ」と韓国・朝鮮人の心」全国大学国語教育実践研究会編『実践国語研究 別冊「三年とうげ」教材研究と全授業記録』p.31
- <sup>6</sup> 千恵淑（2008）「삼년고개 설화의 전승양상 으 로 본한·일문화비교」『佛敎大学総合研究所紀要（2008（別冊））』pp.295-318
- <sup>7</sup> 三ツ井崇（2008）「「三年峠」をめぐる政治的コンテクスト：朝鮮総督府版朝鮮語教科書への採用の意味（京都における日本近代文学の生成と展開）」『佛敎大学総合研究所紀要（2008（別冊））』pp.275-294
- <sup>8</sup> 三ツ井崇（2008）p.293
- <sup>9</sup> 光村図書出版（2015）p.48
- <sup>10</sup> 光村図書出版（2011）『国語三下 あおぞら 教師用指導書』p.139
- <sup>11</sup> 三ツ井崇（2013）「引き継がれるテキスト，読み換えられるテキスト：「三年峠」論・補遺」『韓国朝鮮文化研究：研究紀要（12）』p.6
- <sup>12</sup> 徐斗里（1991）『朝鮮の昔ばなし』茨城図書 pp.7-9
- <sup>13</sup> 朝鮮総督府編（1937）「三年고개」『普通學校朝鮮語讀本 卷四』pp.34-41
- <sup>14</sup> 千恵淑（2008）p.297
- <sup>15</sup> 池田東籬（1714）『都名所車』
- <sup>16</sup> 朝鮮人学校での学習経験を持つ関西大学・院生 고성훈氏にインタビュー調査を行った（2014年8月15日於濟州島）
- <sup>17</sup> 光村図書出版（201996）『国語三下 あおぞら 教師用指導書』p.225

（主任指導教員 難波博孝）